

1 2. サルの生息域コントロール試験

(1) 普及性の高い捕獲方法について

遠竹行俊

〔目的〕

サルの被害対策の中で捕獲方法は、まだ未解決の部分が多い。一般的に行われる有害鳥獣駆除は、銃器使用が一般的であり、実施に関して多くの制約を受ける。また、関係者はそれぞれの立場で面倒な手続きや注意深い配慮を必要とする。

そこで、被害者も実施できる捕獲方法について試験する。

〔方法〕

被害が顕著なあきる野市戸倉（盆堀）地域で、自治会長、自治会員、猟友会、鳥獣保護員、自治体職員等の協力を得て、ワイヤー式トラップ（写真－1，2）と農業資材を利用した組立式捕獲檻（写真－3，4）を使用した。

ワイヤー式トラップは、地中にセットした踏み板を動物が踏むことによって、トラップの止め金が外れ、土中のパイプに仕舞い込まれていたスプリングが、ワイヤーの括り罾を絞り込みながら飛び上がってくるものである。このトラップの設置は、一般的に行われる①獣道を利用した方法と②餌を置いてその周りに放射状に罾を置く方法を用いた。

農業資材を利用した組立式捕獲檻は、キュウリの栽培時に使う支柱用の鉄パイプと直管パイプで、高さ2 m、間口2.4 m、奥行き5.5 mのトンネル状の骨格を組み立て、これに動物防除用ネット（黒色、4本撚り、2 cm目の化学繊維）を被せ、片側を塞ぎ、もう一方に落とし戸を付けた。落とし戸は、入り口の上に蝶番で水平に取り付けてあり、餌を引くと落ち、同時にカンヌキがかかり動物を閉じ込める。

〔結果〕

ワイヤー式トラップ①の方法は、関係者を一同に集め、経験豊富な者が獣道を観察し、罾の設置場所を決めてセットした。10個の罾を用いて二箇所、それぞれ6個（A地点）と4個（B地点）セットした。A地点では3本の獣道を使い、一本の獣道に2個ずつ、またB地点には、作物の近くに一本の杭を打ち、この杭から放射状に4個をセットした。この結果、それぞれの地点で1頭、合計2頭が捕獲できた。

②の方法は、杭を打ちこれにカボチャを括りつけて罾を放射状にセットした。2地点で同時にセットして、これもそれぞれの地点で1頭、合計2頭が捕獲できた。

組立式捕獲檻は、中にジャガイモを置いて約1か月間動物の様子を観察した。この時期は栗が被害を受けており、捕獲檻の中や上にたべ跡が散乱しており、警戒心はなかった。

試験開始約1か月後、サルが檻に警戒していないことを確認できたので、山側のサルが頻繁に動き廻る方を塞ぎ、もう一方に落とし戸を付けた。餌は、カボチャ、ジャガイモ、サツマイモのツルを使用し、同時に8頭を捕獲できた。

以上の3方法の比較は、表1のとおりである。

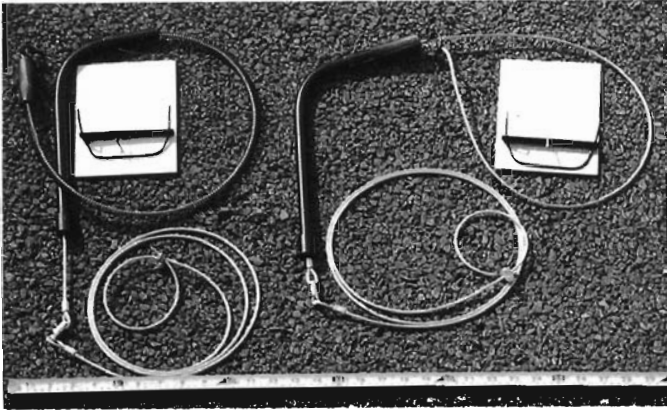


写真-1 ワイヤ式トラップ
(左：作動後、右：作動前)



写真-2 ワイヤ式トラップ
(セット時の踏み板と括り輪の部)



写真-3 組立式捕獲檻 (馴れ観察中)
(高さ2m、間口2.4m、奥行き5.5m、
化学繊維ネット使用)

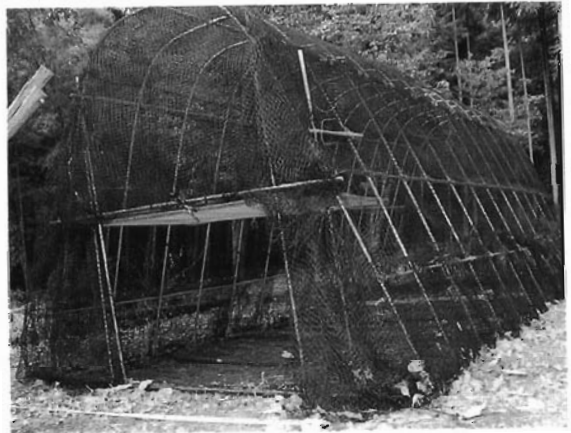


写真-4 組立式捕獲檻 (セット時)

表-1 捕獲方法の比較

捕獲方法		箇所数	捕獲頭数	経験要・不要 使用法の難易	資材費 の比較
ワイヤ式 トラップ	獣道にセット	2か所	2頭	経験・要 使用法・難	1
	餌付きの 杭にセット	2か所	2頭	経験・不要 使用法・易	1
組立式捕獲檻		1か所	8頭	経験・不要 使用法・易	2

*：「資材費の比較」は、資材費価格の単純な比率